

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700426		
法人名	有限会社 介護ケア道央		
事業所名	グループホーム めくもり 1階		
所在地	〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上293番1		
自己評価作成日	平成24年9月26日	評価結果市町村受理日	平成24年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅地に隣接し商店や公園等も近く、自然豊かな場所に立地している。広い敷地を活用し、畑作りや外気浴など、四季折々の風景を楽しめる。同じ敷地内には2ユニットのグループホームがあり、お互いに交流を持ち色々な行事を行っている。又地域の行事にも積極的に参加し地域住民との係わりを大切にしています。当事業所理事長は地域の高齢者が安心して暮らせる様にグループホーム事業を展開しており、ありのままの生活を支援すると言う法人理念の基づき、管理者とスタッフは利用者本位にサービスを提供し、質の向上に努めています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0175700426-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成24年10月22日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、地域の高齢者が住み慣れた地域で安心して、その人らしく暮らし続ける環境を提供したいという運営者の思いから、法人内で2番目に開設された事業所である。自然豊かな環境の中に大きな公園や消防署、病院、商店が近隣にあり、生活しやすい環境にある。管理者と職員は法人の理念を基に共通した認識を持ち、利用者一人ひとりがその人らしくありのままに日々過ごせるよう取り組んでいる。訪問看護を活かし利用者の健康管理や医療連携、変化時などの適切な対応が確保され、利用者・家族の安心に繋げている。管理者はケアの質のレベルアップを念頭に職員を積極的に研修に参加させ、ケアに活かすよう心掛けている。広い敷地内には系列のグループホームがあり、相互の利用者同士が菜園や庭園で日常的に交流ができ、ご近所付き合いの関係構築している。また、管理者は事業所の機能を活かし地域と密着した交流を進めつつあり、地域の核となる事業所として期待できる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念とは別に、ここでのサービスを通しての地域づくりを理念に掲げて掲示しており、日々スタッフに意識付けをし、日常の支援に生かす努力をしています。	利用者が普通の生活をこれまで通りに過ごせることを目指す法人の理念を基本に「ありのままに、ゆとりと、ぬくもりのある暮らし」と言う事業所独自の理念を掲げている。日々の申し送りの時やミーティング時に職員全体で確認して実践に繋げるよう取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し地域の一員として、行事等(花見・運動会・農業祭・文化祭)に積極的に参加・見学に行っています。	地域の一員として地域の清掃活動や農業祭、文化祭への参加、小学校の運動会の見学などで地域と交流している。夏休みには地域の子どもボランティアが訪れ、利用者と共に芋ほり体験や散歩を楽しむなど、徐々に交流が深まっている。	地域との交流が進みつつあるので、今後は事業所の機能を地域に活かす方法も考え、利用者や認知症への理解の啓発活動の実施など、地域とより密着した相互交流を深め、事業所が地域の核となることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者と一緒に地域のごみ拾い。又近所の子供達による夏休みボランティアを開催しており、今後はぬくもり便り等を回覧し、認知症の方々の理解を深めて行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より同じ敷地内のグループホームとの合同の運営推進会議となり、他の利用者代表・家族代表の方々の意見・要望や情報も得ることが出来、日々のサービスに活かしている。	利用者及び家族代表・町内会代表・民生委員を含め市職員、管理者などで2ヶ月に一度運営推進会議を開催している。事業所の状況や行事について説明し、避難訓練時の協力体制も話し合われている。今年度より敷地内にある系列のグループホームと合同で会議を開催しており、目線の異なる意見も上がるなど相互の学びや気づきを運営に活かすよう取り組んでいる。	運営推進会議は様々な協力関係が得やすい機会である。特に家族の意見や地域住民の協力が大切であることを考慮し、利用者家族の全員に、またご近所やケアスタッフなどの関係者にも参加を募り、幅広い意見が運営に反映されることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回出席していただき、又制度上の不明な点や色々なアドバイスをその都度うかがっている。	市の担当者とは運営推進会議を通して相談やアドバイスを得ている。制度上で分からないことが生じたときは、細かなことでも電話で相談し指導やアドバイスをもらうよう心がけている。また事業所の行事に市の担当者が参加するなど協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に順次参加し、又ミーティング時等に勉強会を行い共有を図っている。管理者と職員で話し合いながら、見守りを徹底し施錠しない自由な暮らしを実現している。	身体拘束に関する研修を受け職員全体で共有しながら身体拘束のないケアに努めている。日々の言葉掛けやマナーに気をつけ、毎月のミーティング時に接遇について話し合いをしている。不適切な行為はないか職員同士で確認し合い、適切な対応を心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての研修会には常に参加し、参加できなかった職員には勉強会を開いたり資料を回覧し、日頃から不適切な行動が無いか話し合い周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会等に参加し理解はしているが、現在は対象者はいない。今後必要に応じて対応していきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は口頭及び文章で説明し、疑問点等あれば理解・納得するまで説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時には要望等無いか毎回確認しており、又2ヶ月毎にお便りを発行し、利用者の様子を伝え、希望・要望案内を記載し、運営に活かす様心がけている。	家族の来訪時に利用者の日々の暮らしぶりを報告し、家族の意見や希望を聞く機会としている。また、お便りを通して呼びかけ要望を把握するよう取り組んでいるが、家族の意見や要望表出の活性化には至っていない。	言いづらい家族の心情を理解し、法人全体でのアンケート実施など様々な方法を工夫し、家族の意見表出の活性化に繋げ多岐にわたるニーズを運営に反映できるよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティング時に職員の意見や提案を聞く機会を設けたり、日常的に気づいた事等その都度聞き入れ、ケアに反映させている。	事業所は職員が日常のケアの中で意見が言い易い雰囲気となっており、都度意見やアイデアを管理者に伝えている。またミーティング時の話し合いと年2回の職員面談を実施し、希望や提案を検討して運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法によって労働条件を整えている。又管理者や職員から色々な話を聞き、働く意欲の向上心を持ってもらえる様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の色々な研修に出来る限り参加できるように配慮している。研修内容を報告する機会を設け全職員が共有出来る場を設けている。毎月介護情報誌を購入し職員で閲覧出来る様にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣接しているグループホームとの合同の行事を行ったり、地域のグループホーム協会に加入しており、研修会や懇親会等参加し情報交換等行いながら、日々のサービス向上に励んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で本人・家族にお話を聞き、本人の希望・不安に思っている事を聞いて、安心して生活が出来る様に信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの家族と本人の状況・家族の希望・不安に思っている事を聞き、どの様な支援を必要としているかを把握し、良好な関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の方には本人・家族と見学に来ていただき、本人の状況・何を希望し・何を不安に思っているのかを聞き、出来る限りサービスに取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人らしいありのままの暮らし・生き方の実現に向けて、支援し共に支え合える関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の訪問時にはその都度近況を伝え、家族からの意見等うかがっている。又本人が家族との連絡を求めた時はすぐに連絡を取り、家族と職員が共に支えあえる協力関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が訪室されたり、月命日にお坊さんが来訪されたり、昔から利用している理容店の方が迎えに来て散髪し、それまでの繋がりを大切にする支援をしている。	近隣で暮っていた利用者が多く、知人が訪れ囲碁を楽しんだり、月命日にお坊さんが来訪するなどそれまでの馴染みの関係を大切に継続している。行きつけの理容室や商店に出かけることも多い。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	お茶や食事の時は職員も一緒に席に付き、利用者同士が円滑にコミュニケーションが取れる様に支援している。レクレーション等も利用者が孤立しない様に職員が調整役となって、利用者同士の関係がうまく様に配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る時は、今までの生活が継続出来る様に情報提供し、時々面会にうかがったり、退所された家族の方も来所され近況報告してくれるので、その都度職員にも報告し関係が続いている。			
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の係わりの中でその人らしい、ありのままの生き方・考え方の把握に努めている。意向の把握が困難な時は、本人の表情やしぐさを参考に、職員同士や家族と相談しながら思いを受け取る努力をしている。	理念を念頭に一人ひとりの思いや意向を受け止めている。表出が難しい利用者の場合は、リラックスする入浴時や様々な機会話し易い雰囲気作りに努めるとともに、表情やしぐさから思いを把握しよう心掛けている。また、家族やケアに関ったケアマネージャーから情報を得て支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴や生活の様子を伝えてもらったり、今まで本人や家族のケアに係わった方々(ケアマネ・市職員等)から話を聞いています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活のリズムを把握し、その日の体調や心理状態を見極め、今出来る事をしていただいている。必ず無理をしない様に声を掛けをおこなう。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の思いを聞き、普段の何気ない利用者の一言やスタッフの気付き・生活の様子を視野に入れたアセスメントを行い現状を把握し介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、サービスの見直しを行っている。変化時は随時見直しをしている。	基本的には3ヶ月毎にモニタリングを行っている。利用者の日々の生活について、一言の感想を記入し、実態の見える記録を基に家族の思いや希望を取り入れ、職員全体で話し合い現状に即した介護計画を作成している。変化時には随時見直しをしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに心身の状態や家族との関わり合い、食事・水分量・排泄・バイタルチェック・利用者の状況や気づいた事を記録し、ケアや介護計画に役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて病院受診・送迎・入院時の衣類の洗濯等必要な支援を柔軟に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で生活が続けていける様に、市職員・民生委員・警察・消防等協力を呼びかけている。又地元のボランティアの方に余興をお願いしたり、近所の図書館や公園に散歩に出掛けたりしています。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医を持っており、基本的には家族が同行し受診しているが、家族の都合が付かない時は職員が通院の動向をおこない、結果を家族に報告している。	家族の協力の下でかかりつけ医の受診となっている。家族の状況によって職員が受診同行を行い、身体状況を医師に伝達し結果を家族に報告している。また訪問看護師と常に連携を図り、利用者の健康管理や医師との情報交換を密に行い適切な医療が確保されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員が日頃の利用者の健康管理を支援し、訪問看護師に報告している。必要時はかかりつけ医や協力病院に連絡し受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の支援方法の情報を医療機関に提出し、職員が見舞う様にしている。又家族共有情報交換をおこない回復状況等、退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今年度改めて重度化した場合における指針を家族に配布しており、今後指針に沿ったケアを展開していきます。他施設・医療との連携は勿論、ターミナルケア研修にも参加し資料の回覧をおこなっている。	重度化に向けた指針を作成し、家族に提示し意向を確認している。事業所では看取りと思われる経験もあり、近い将来起こり得る状況を見据え看取り体制構築の意向を持っている。管理者は看取り研修を受講している。	事業所は終末期のあり方について考慮中である。事業所として出来ること出来ないことの限界を踏まえ、職員の認識を共有し、利用者・家族・医療関係者との協力体制を整え看取りケアに繋げる取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成しており、緊急時に備えている。又毎年研修会に参加し、後日勉強会等開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導の下年に2回の避難訓練を行っており、その内1回は運営推進会議と日程を調整しながらおこない、地域の協力体制をお願いしている。又研修会にも参加し後日勉強会を開催し、利用者の搬送方法等学んでいる。	消防署の協力の下、利用者と共に年2回避難訓練を行っている。終了後に検討会を行い課題を話し合っている。秋の訓練を夜間想定で行う予定で、運営推進会議や町内会に呼びかけ地域との協力体制の構築に向け取り組んでいる。災害時の飲料水、食料、暖房器具などの備蓄品も確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使い・視線を合わせた会話・声のトーン・利用者の誇り・プライバシーを損なわないように常に心掛け、職員間で話し合っている。	利用者のプライドを尊重する関わりに留意し、会話は常に視線をあわせ、利用者にとって心地よいトーンで声掛けをするよう心がけている。研修で得た気づきも参考に職員全体で共有しケアに活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者一人一人のペースに合わせて、ありのままの生活が実現できる様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調等に配慮しながら、その時々本人の思いに対応出来る様に、支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は本人の意向で決定しているが、自己決定が出来ない方には職員が判断したりアドバイスをしている。男性の方も毎日髭剃りの声掛け・介助をおこなっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の負担にならない程度に、職員と一緒に準備や片付けを行っている。四季折々の旬な物を出す事を心掛け、1ヶ月に1回程度で外出に出掛けたり、出前を取るなどして皆さん楽しみにしている。	調理の下準備や後片付けなど利用者の出来ることを大切に支援している。利用者の好みや希望を取り入れ、菜園で育てた新鮮な野菜も食卓に上がり、会話を楽しみながら食事している。誕生会には外食をしたり時には出前を取るなど、楽しみな食事となるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事を毎回チェックし、1日の食事が確保されて無い方には、その都度好みに合わせた食べ物・飲み物を提供し栄養バランスを取り入れてもらう様心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、自分で口腔ケアが困難な方には介助をし清潔を保っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を把握し、さりげない声掛けをおこないトイレ誘導を行なっている。	利用者一人ひとりの排泄状況を記録し、声掛けに留意しながらさりげなく誘導し、トイレでの排泄を促している。排泄に服薬を要する場合でも、食べ物や水分を工夫し自然排泄ができるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日排便チェックをおこない、水分・食事・乳製品を摂取していただき、又毎日体操を取り入れ便秘の改善に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴日としているが、利用者の体調や希望に副って、別の日に入浴やシャワー浴・足浴をおこなっている。	基本的には週2回の入浴となっているが、利用者の希望に沿って何時でも入浴できる体制になっている。入浴を拒まれる時は話題を変えたり、日を改めて声掛けをするなど、清潔が保てるように心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、個々の生活リズムに合わせて休息していただき、夜間安眠出来ない利用者に対しては話を聞き安心感が得られる声掛けをおこない見守る。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容を把握出来る様に投薬説明書をファイルに綴っている。又誤りが無いように再度の確認をしてから本人に手渡しし、飲み忘れが無い確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人に合った出来る事をしていただき、その都度感謝の言葉を伝えている。職員と一緒に野菜の収穫をおこなったり、花壇の草取りをしたり、又共通の趣味を持った利用者同士が交流出来る場を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や希望に副って、散歩やドライブ・外食に出掛け、季節の変化を楽しんで実感していただくために、花見や紅葉見学に出掛けている。又地域のイベント等も出来るだけ参加している。	四季折々の花見や紅葉見学、地域の行事や小学校の運動会などに出かけ利用者の楽しみ事となっている。また買い物や近隣の公園には日常的に出かけたり、事業所前に設けられた広いテント内でお茶を楽しみ、菜園の野菜づくり、花壇の手入れなど戸外に出る機会が多い。冬場にはドライブや買い物などを通して外気に触れられるよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者には、一緒に買い物に出掛け支払い時の支援をおこなっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話を設置し、利用者の希望で自由に電話が出来るようにしている。又手紙のやり取りが出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節ごとに飾りつけをおこない、柔らかくアットホームな雰囲気を作り出している。冬は室内が乾燥しない様に心掛けている。	程よい広さの玄関に利用者に分かり易い大きな靴箱を設けている。広い食卓スペースと居間を囲むように居室、トイレ、事務室があり木のぬくもりが感じられる造作となっている。壁には四季折々の装飾や手作り作品が飾られている。不快な音や臭いもなく湿度対策も工夫している。居間のソファコーナーや食卓スペースは、一人ひとりが思い思いの場所でゆったりと過ごせる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓スペースとソファで気の合った利用者同士がコミュニケーションを取れる様に見守り・支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、以前本人が使用していた物や写真・仏壇等持込み、利用者が居心地良く過ごせる様になっている。	居室には本人のそれまでの生活を思わせる馴染みの家具や仏壇、テレビなどが置かれ、ゆったりと過ごせるよう支援している。家族写真に囲まれ絆が感じられる居場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリーになっており、廊下・居間・トイレ・浴室等手摺りが付いている。利用者の状況に応じてその都度検討しながら、安全に生活向上が出来る環境設備に努めている。		